

ほやほや

Fukui Red Cross Hospital

福井赤十字病院広報誌

vol.019



外来診察室

表紙の写真は、外来診療時の風景です。患者さまのプライバシーに配慮し、診療室は個室となっています。また本館1階・2階の各診療ブースはそれぞれ複数の診療科で構成されていますが、各科医師を中心に、各職域スタッフによるチーム医療により患者さまの診療にあたさせていただけます。

さらに、診療室へのご案内、衣服着脱等の簡易な介助、各検査部署への誘導など診療業務の補助員としてブースマネージャーを適宜配置しているところです。

当院には、毎日多くの患者さまが来院されますが、今後とも安心して診療を受けていただけることができるように、これからも病院スタッフ一人ひとりが心温まる医療を心がけていきたいと思います。

福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもとに、
県民の求める優れた医療を提供します。

基本方針

- 患者様の権利と尊厳を尊重し、相互理解に基づく医療を行います。
- 患者様に優しい医療を提供します。
- 医療の安全と質の向上に努めます。
- 地域の保健・福祉・医療機関と連携を進めます。
- 急救医療を充実させ、地域の急性期医療を行います。
- 災害時に積極的な医療救援や救援活動を行います。

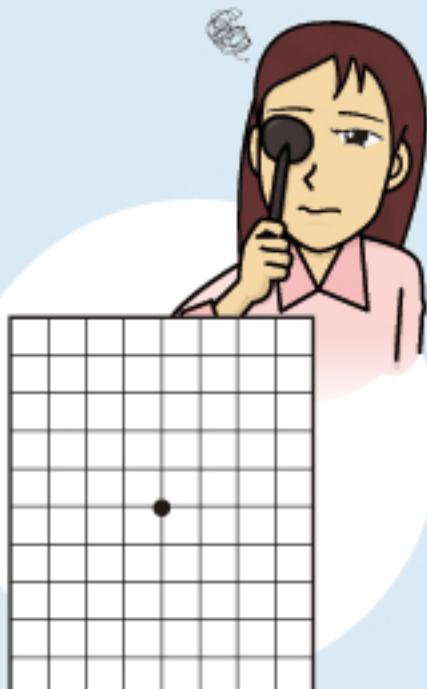


図1

あなたの眼、もっと大切に 知っていますか? 加齢黄斑変性(症)

まずは簡単な視力検査でチェック。
そこから分かる病気をお話します。

線がゆがんだり見えづらい時は要注意です!

側の苦労も少なくなりました。
(入院期間は3日間)

まずは碁盤の目のような図を見てください(図1)。視力検査をするみたいに「片方の眼は隠して、一方の眼だけで見てください。もし縦横の線がゆがんで見えたり、中心のあたりが見えづらいようでしたら、それは黄斑変性症かもしれません(図2)。

人の眼はカメラとよく似た構造をしています。角膜(いわゆる黒目)や水晶体がレンズ、網膜がフィルムの役割をしています。網膜のなかでも重要な場所が「黄斑」です。黄斑は視力に最も関わりが深く、色を識別する細胞のほとんどはこの部分にあります(図3)。その黄斑部分が、加齢、高度近视、炎症、外傷などの原因によつて変性していく疾患が黄斑変性症です。

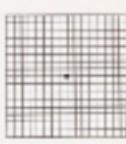
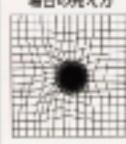
なかでも最も多いのが「加齢黄斑変性」です。50才以上の人で黄斑に病变が発生し変性していく病気です。高齢者に多く発症することから、加齢による老化現象が主な原因と考えられています。男性は女性の3~10倍の発症率、喫煙者

は非喫煙者より約2倍の発症率があります。

欧米に多く本邦で少ない疾患でしたが、食生活の欧米化と共に、最近では社会的失明疾患の上位を占め、将来さらに増加すると推測されています。

数年前までは入院手術が治療の主流でしたが、あまり良い結果は得られませんでした。現在、当院で行つてている治療の主役は「光線力学療法(PDT)」です。入院で、光感受性薬剤を投与して黄斑変性の病変に集積させ、PDT用の特殊な非加熱レーザーを眼内の黄斑に当てる。これにより病変を瘢痕化させて視力改善を目指します。

以前の治療に比べて視力維持・改善が期待でき、治療に対する患者の理解も高まっています。気になつた方は、一度相談してみてください。

正規の見え方

図2
黄斑変性症の
場合の見え方


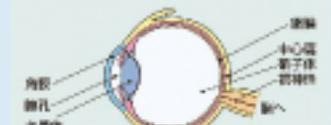

図3

図3

眼科医師
吉松純

能登半島地震被災地へ救護班出動! 救護活動の様子を報告します。

去る3月25日に発生した能登半島地震。翌26日の深夜12時半頃に日本赤十字社石川県支部より出動依頼が入り、直ちに医師や看護師らで救護班を編成しました。

同日朝7時、第1班(7名)が病院を出発。現地では打ち合わせの後、すぐに日赤救護所で活動を開始し、24時間体制の救護対応にあたりました。門前町会館に避難している住民200名を一人ずつ問診したり心のケアに努めた

り、壊滅的な家屋が並ぶ中、民家一軒ずつを歩いて巡回、住民に声をかけながら健康診断を繰り返しました。

第2班(7名)は、復場職員や保健師、ボランティアにも疲労感があると想え、健康チェックも促しました。第3班(7名)は4月11日から12日まで、がけ崩れで陸の孤島となつた深見地区で救護活動を、河岸公民館周辺の道下地区・深見地区では、「ト」バのケアを実施しました。(73名)



第1班:3/26~27

第2班:4/1~3

第3班:4/11~12



院
ひ
長
の
と
こ



Q お聞きします

私はベースメーカーを表すし、自分で車イスを動かせません。病院の障害者用駐車場は、自分で車椅子を使う人でないと使用出来ないので、病状に合わせて対応してほしいと思います。

A お答えします

「車いす」の方が原則です。付添人がおられる方は患者様を降ろした後に、一般駐車場への移動をお願いしています。

「車場」は、正面駐車場に10台分設置してありますが、運転者が「車いす」の方が原則です。付添人がおられる方は患者様を降ろした後に、一般駐車場への移動をお願いしています。

ベースメーカー表すの患者様には、「障害者専用駐車場」として西駐車場(管理棟南側)に13台分確保しておりますので、そちらの利用をお願いしています。

毎年恒例の「看護の日」の記念行事が、和やかな雰囲気の中で行われました。

毎年5月12日は、看護の基礎を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、「看護の日」としています。当院では5月10日、11日、12日地域の皆様の健康支援を目的に記念行事を行いました。

エントランスホールを中心とした赤十字救急法をはじめ、身長・体重・血圧・体脂肪などを測定。さらに最近注目や栄養などの相談、健康体操、健康に関する様々な情報の展示、一日看護体験なども実施しました。

2日間の来院者数は約950名。これからもより多くの皆様の健康を支援・指導していくことを願っています。



Topics 6・7・8月

すずらんのしおりから、 しあわせと元気をいただきました。

去る6月15日、入院患者様の一日も早い回復を願って、「しあわせ」の花言葉を持つ「すずらんの押し花」を使った手作りのしおりが贈られました。当日、当院を訪れたのは本県出身の全日空の客室乗務員、町駒さん。制服姿のまま、小児科や産婦人科、内科、整形外科などの病棟を回り、「早く元気になってね!」と話をしながら、すずらんとしおりを渡していただきました。入院患者様からは笑顔のお返しがありました。

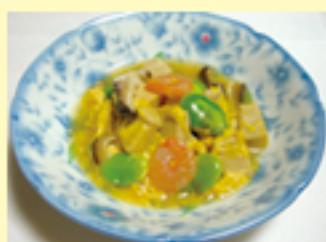
全日空からのすずらんの贈り物は、今年で52回目(当院では47回目)。今年も150枚のしおりとすずらんの鉢植えをいただきました。また同日、全国の52病院にも手作りのしおり18,000枚を贈呈。全日空の皆様からの優しい心づかいに感謝するとともに、これからも全職員一丸となって、患者様の一日も早い回復のための努力を続けてまいります。



栄養課
おすすめ!

夏のレシピ (そらまめの卵とじ)

①高野豆腐は柔らかくもどし、1cm幅に切る。②干ししいたけは水でもどし、石づきを取り、5mm幅に切る。③むきえび(冷凍)は流水解凍。④そら豆は茹で、あま皮をむく。⑤鍋に本つゆと水1.5カップ、調味料A、高野豆腐を入れて火にかける。煮立つたら落とし豆腐をし、約10分煮る。むきえびとそら豆、しいたけを入れてさっと煮て、水溶き片栗粉を加える。ひと煮立ちしたら卵を溶いて回し入れ、好みの加減に火を通す。



材料(4人分)／高野豆腐2枚、むきえび(冷凍)200g、そら豆(正味)100g、干ししいたけ3枚、卵2個、本つゆ1/5カップ、調味料A(三温糖15g、酒適量、塩適量)、片栗粉(水溶き)少々

そら豆はでんぶんとたんぱく質が主成分。ビタミンB1、B2、C、カルシウムなど、ミネラルも豊富です。

オープンホスピタル

- 1日病棟体験コース、病棟夜勤体験コース
8月10日～9月10日
- 赤十字体験コース(救急法)
8月21・22・23日(3日間)
募集人数:10名程度
詳しくは(<http://www.toku-med.jrc.or.jp/>)
職員(看護師)募集をご覧ください。

中央点滴室にリクライニングチェアが増設されました。

中央点滴室に化学療法用リクライニングチェアが4台、新たに導入されました。このリクライニングチェア導入により、患者の皆様にとって、治療による苦痛が少しでも軽減されればと願っています。



平成19年6月11日付けで「地域医療支援病院」として承認されました。

当院では、国が推進している医療分野に協力していくため、「院外見学せん」の発行を推進しています。ご希望の方は主治医までご相談ください。

ほやはや

“ほやはや”と納得できる情報、できたて“ほやはや”的情報をみなさまに提供していく季刊発行の院内情報誌です。院内の広報委員のスタッフが毎回その季節に合った特集を組み、お役に立てる情報を掲載すべく病院各部門のスタッフそれぞれから原稿を集め誌面を制作しています。